

時間と空間と新しい私たち

「時空を超えて」というたぐいの話はアニメやマンガや、あるいはSFなどでは定番の一つだ。「時間」と「空間」との関わりはいつも人間の興味をひいてきた。アニメやマンガの世界では、「タイムマシン」に乗って、大昔に旅したり、未来の自分に会いにいつたりする。時間」と「空間」とはよく考えるとまったく別の次元のことだけれど、もつとよく考えるところの二つはごくふつうに、しかも深く結びついていることがわかる。

まず、「時間」のことを「空間」のこと（場所や形のあるもの）として考えるということを考えてみよう。これは実にふつうに何気なくやっていることだ。「長い間」なんて「時間」のことを言うが、「長い」というのは「長い橋」みたいに「空間」のことを表すことばのはずだ。「時間が流れ」るとか「時間を無駄に使うなんてふつうの言い方だね」。

こんなふうに「時間」のことを「空間」として考えるということは僕たちも当たり前のようやっていることだけれど、世界中には（僕

たちから見ると）もつとおもしろい言い方をする人たちがいる（当人たちにはふつうなわけだけど）。アフリカのある部族の言語では、



Illustrated by MIYATA NAOMI

「去年」のことは「食べてしまつたもの」という意味のことばで表されるらしい。また南米のある部族の言語では、以前このコラムでも取り上げた言語と同じよう

に、数が1と2までしかなくて、3以上は数えられない。それで、「一年前」「二年前」ということは言えるんだけど、「三年前」とは言えない。そこでどうするかといふと、そのころはどこにいたかというようなことを聞いて、「あそここの川の向こう」とか「あの岩のところ」で「時間」のことを言う。一方で「時間」のことを言うらしい。

「空間」のことを「時間」のように言うこともある。扇風機が人のいない方向を向いていたり、駐車場など

で車をきちんととした向きに停められないと、「あさつての方を向いてる」なんて言う人たちがいる。不動産屋さんでアパートを探していると、「駅から徒歩5分」なんて「時間」で距離が示されたりする。

この「時間」と「空間」に関して、アニメやマンガ世代の人たちには実はすごいことがある、のではないかと僕は思う。それ以前の世代と大きく違うことが一つある。ちょっと難しい言い方になるけど、それ以前の世代の人たちにとって「空間」と「時間」は一本の線だったということだ（たぶん）。マンガを読み慣れてない「大人」がマンガを読むとえらく時間がかかることがある。どうも文字をていねいに右から左に順番に読んでるみたいなんだ。一つの「時間」の流れに沿って、一つの「空間」を読んでいる。でも、マンガ世代は違う。（絵も文字も）同時に複線的に「空間」を読んでる。情報の入れ方が違うみたいだ。何かが変わっていくような気がする。